

9月19日

## 主教セオドル

Theodorus of tarsus

(602~690)

～イングランド教会を組織化～

<人名事典などでの別表記：テオドロス、シオドア>

セオドルは7世紀の初めに小アジアのタルソスで生まれたギリシア人です。若い時にタルソスとアテナイで教育を受けた彼は、ギリシア学者として、そして神学者として活躍をしていきます。

そんな折、イギリス国土をペストが襲っていきます。その状況の中で、セオドルはハドリアヌスと共に1年がかりでイングランドに渡りますが、無秩序な教会の状況が目の前にはありました。ハドリアヌスは教会のため、セオドルをカンタベリー大司教に任命します。セオドルはすでに67歳という高齢でしたが、彼は機知と強靱さによってたくさんの改革をおこなっていきました。

セオドルはハドリアヌスと共に、教区を設定しました。また、教理や規則を整理し、完成させていきます。さらに全国教会会議を主宰し、さまざまな事項について、議論し、決定していける仕組みを作っていました。

673年におこなわれたハートフォード会議では、司教たちから熱い信頼と支持を受け、教会法規が受託されます。そこでは復活日の礼拝の統一や、司教区における司教と修道院の関係の確認、そして婚姻法の執行などがおこなわれました。



タルソス

さらに680年におこなわれたハットフィールド会議では、コンスタンチノーブルでおこった異端問題を受け、国内の問題だけではなく、世界的な事件にも目を向けるようにセオドルは発言します。そして「正統信仰宣言」を採択し、カンタベリー大司教としての権威と、イングランド教会の統一とを確立していきました。

セオドルは、教会との和解を求める人にどのような悔い改めを課すべきか、あるいは結婚にまつわる諸問題や、ローマ教会とケルト教会の関係にいたるまで、様々な場面で意見を求められました。そしてその見解は「海俊集」の中にまとめられました。

690年に87歳で彼は天に召されました。セオドルは21年間、カンタベリー大司教として、混乱状態だったイングランド教会を組織化し、自立させました。その功績は大きく、現代にも強い影響を与えています。

### <特禱>

**信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教セオドルを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン**